

## ネギさび病とネギ黒斑病に対する防除体系

園芸試験場

### 1 取り上げた理由

宮城県内のネギ産地における主要病害は、ネギさび病と黒斑病である。これらの病害に対し防除効果の高い薬剤は、宮城県病害虫防除基準、普及に移す技術（73, 74）に掲載した。これらの薬剤を用いた防除体系を検討した結果、慣行よりも安価で防除効果が高い成果が得られたので参考資料とする。

### 2 参考資料

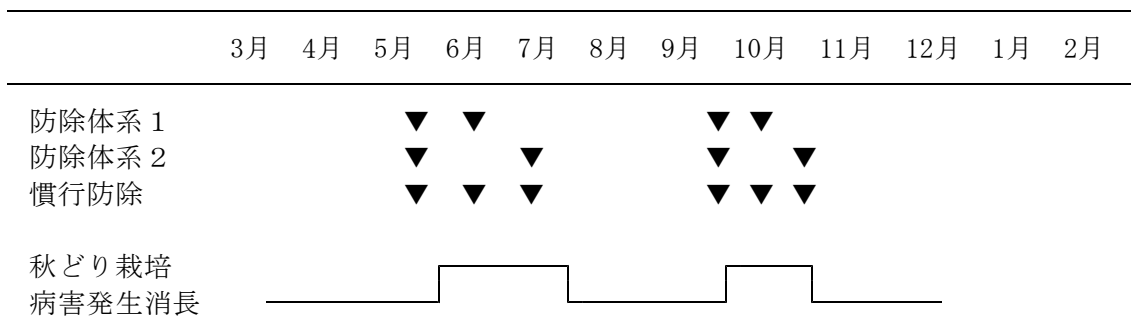
- 1) ネギさび病とネギ黒斑病の発生状況に応じて防除体系を使い分ける。
- 2) 病害の発生前～初期にマンゼブフロアブル（ペンコゼブ）を用いる。

防除体系1：降雨が多い場合は、マンゼブフロアブル散布7日～10日後にアゾキシストロビンフロアブル（アミスター20）を散布することで、長期間安定して慣行防除よりも防除効果が得られる。

防除体系2：降雨が少ない場合、マンゼブフロアブル散布14日～20日後クレソキシムメチルフロアブル（ストロビー）を散布することで慣行防除よりも防除効果が得られる。

### 3) 防除体系

	発病前散布		2回目散布		3回目散布
(1) 防除体系1	マンゼブフロアブル	→	アゾキシストロビンフロアブル	→	散布無
(2) 防除体系2	マンゼブフロアブル	→	散布無	→	クレソキシムメチルフロアブル
(3) 慣行防除	マンゼブフロアブル	→	イプロジオン水和剤	→	マンゼブフロアブル



▼：散布時期

### 3 利活用の留意点

- 1) 曇雨天日が続く場合は、発生を抑えることができない場合があるので、最終散布後に防除体系1ではクレソキシムメチル剤を、防除体系2ではアゾキシストロビンを散布する。
- 2) ネギは、薬剤が付着しにくい作物のため、展着剤を必ず添加する。
- 3) ネギコガやスリップス類等による被害は、本病害の発生を助長させるため殺虫剤を加用する。
- 4) さび病と黒斑病は、他のネギ類にも発生するので、防除の際は周辺のネギ類作物へも同時防除する。

（問い合わせ先：園芸試験場 環境部 電話022-383-8132）

#### 4 背景となった主要な試験研究

- 1) 研究課題名及び研究期間 ネギ類病害の防除技術の確立 平成9年～12年  
 新規発生病害虫の発生生体の解明と防除法確立に関する試験 平成10年～12年  
 新農薬による病害虫防除方法 平成9年～10年
- 2) 参考データ

表-1 ネギさび病に対する防除体系の効果

	発病株率	発病度	防除価1 (無処理対比)	防除価2 (慣行対比)	薬害
防除体系1	8.7%	2.5	93.9	85.9	—
防除体系2	14.7	4.0	90.2	77.4	—
慣行防除	63.3	17.7	56.8	—	—
無処理	99.3	41.0	—	—	—

※品種：金長3号，H11/6/22，6/29，7/7散布，最終散布6日後の7/13の結果  
 防除価は発病度より算出

表-2 ネギ黒斑病に対する防除体系の効果

	発病株率	発病度	防除価1 (発病株率から)	防除価2 (発病度から)	薬害
防除体系1	8.0%	2.0	63.7	64.9	—
防除体系2	1.3	0.3	94.1	94.7	—
慣行防除	2.0	0.5	90.9	91.2	—
無処理	22.0	5.7	—	—	—

※品種：金長3号，6/22，6/29，7/7散布，最終散布6日後の7/13の結果

表-3 ネギ病害に対する殺虫剤添加による防除効果

区名	殺虫剤有無	さび病		黒斑病		薬害
		発病株率	発病度	発病株率	発病度	
慣行防除	有	16.7%	4.2	0.7%	0.2	—
	無	32.0	8.5	11.3	2.8	—
無処理	有	57.3	16.7	10.7	2.8	—
	無	67.3	27.2	31.3	8.0	—

※品種：余目一本金長3号，6/22，6/29，7/7散布，最終散布6日後の7/13の結果

薬剤費（10a当たり200ℓ散布したときの薬剤費）

防除体系1：1,800円程度，防除体系2：1,800円程度，慣行防除：3,000円程度

※ペンコゼブフロアブル（600倍散布，500ml-600円）ロブラール水和剤（1,000倍，500g-5,500円）  
 ストロビーフロアブル（2,000倍，500ml-7,000円）アミスター20フロアブル（2,000倍，250ml-3,500円）

#### 3) 発表論文等

なし